

(3) 家庭科の消費生活と環境に関する学習を基点とした校種間・教科間のつながり

ア 小・中・高等学校の家庭科における「消費生活と環境」の系統性

小・中・高等学校の家庭科は、自己と家庭、家庭と社会とのつながりという「空間軸」と人の一生という「時間軸」の視点を踏まえ、よりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成する視点で、体系化が図られました。「空間軸」と「時間軸」という考え方については、旧学習指導要領の高等学校家庭科で示され、現行の学習指導要領で、小・中学校にも取り入れられました。これによって、小・中・高等学校家庭科の系統性がより重視されました。

家庭科における「消費生活と環境」に関する学習内容の系統性を、時間軸と空間軸から捉え直したものを図1に示しました。小学校では、物の使い方などを考えて実践することで、基礎となる知識・技能を身に付け、身近な環境との関わりに興味をもたせます。中学校では、自分や家族の生活を見直し、地域等の環境に配慮した消費生活の工夫、実践を行います。高等学校では、自らの消費行動が地域や社会にどのような影響を与えるかを考え、次世代や将来を考えた意思決定ができるようにし、持続可能なライフスタイルの確立を目指します。

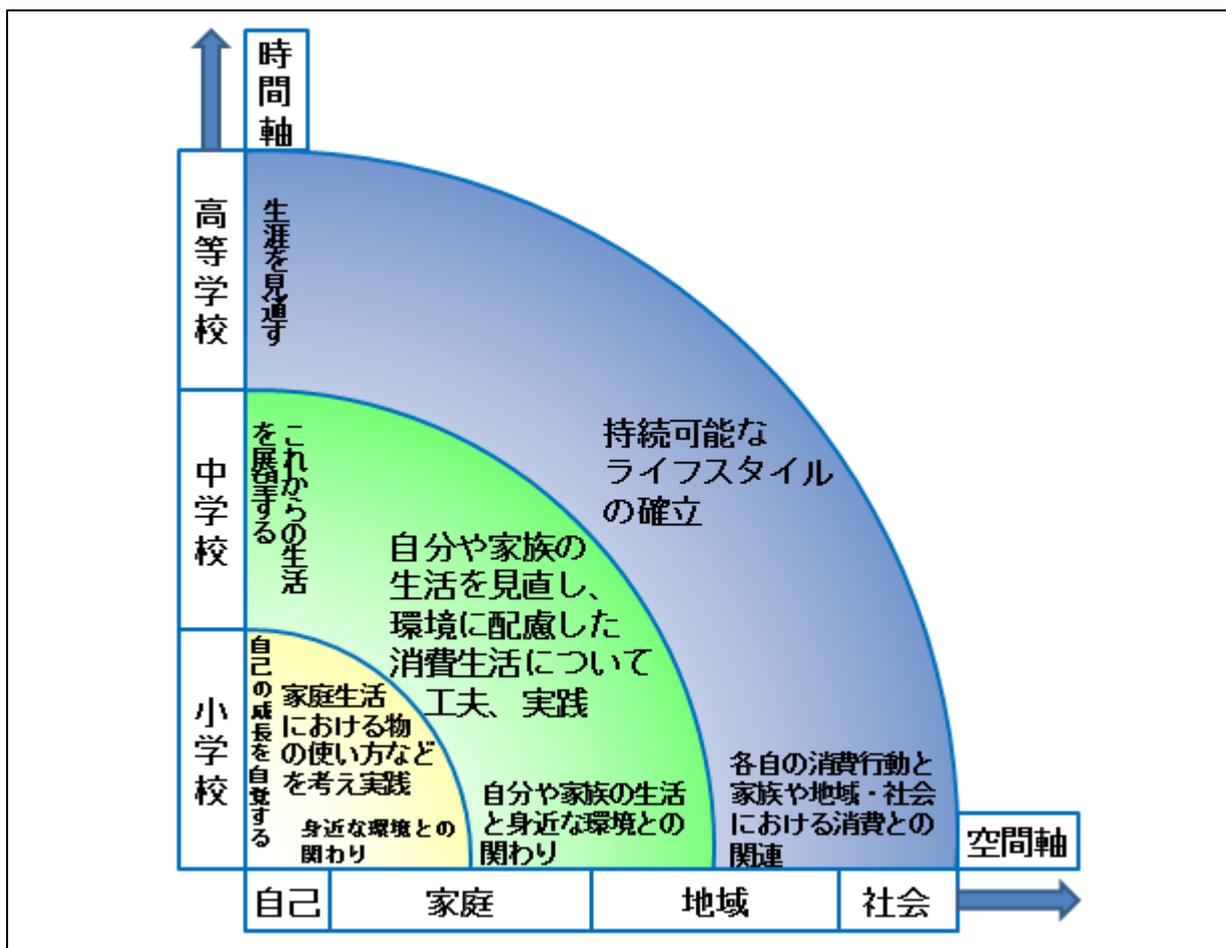


図1 家庭科における「消費生活と環境」に関する学習内容の系統図

イ 家庭科を基点とした「消費生活と環境」に関する内容の系統性

「持続可能な社会づくり」や「消費生活と環境」に関する内容は、他教科でも学習しており、家庭科で学習する内容とつながりのあるものがたくさんあります。家庭科の「消費生活と環境」に関する他教科の学習内容と教科書の取り扱い例を表1にまとめています。また、家庭科を基点とした「消費生活と環境」に関する内容の系統図(図2)を作成しました。

家庭科の内容は、自己を中心として、家庭から地域、地域から社会へとつながっています。自己の周りには一番身近な衣食住などの生活があり、その生活を支えるものとして家族とのかかわりや家庭生活があり、家庭生活は地域や社会との関わりの中にあります。小・中・高等学校と発達段階が進むにつれて家庭科の学習内容は広がっていきます。それと同時に他教科とのつながりも増えていきます。このつながりを図2に表しました。特に消費生活と環境は地域・社会と関わりが強く、衣食住や家庭生活を支えるものでもあります。家庭科の教科の特徴として、実践的・体験的な学習活動を通して学習を深めることが挙げられます。「消費生活と環境」に関する内容は、他教科とのつながりを意識しながら家族・家庭生活、衣食住の生活と組み合わせる必要があります。

表1 家庭科の「消費生活と環境」に関する他教科の学習内容と教科書の取り扱い例

↑クリックすれば表1が開きます。

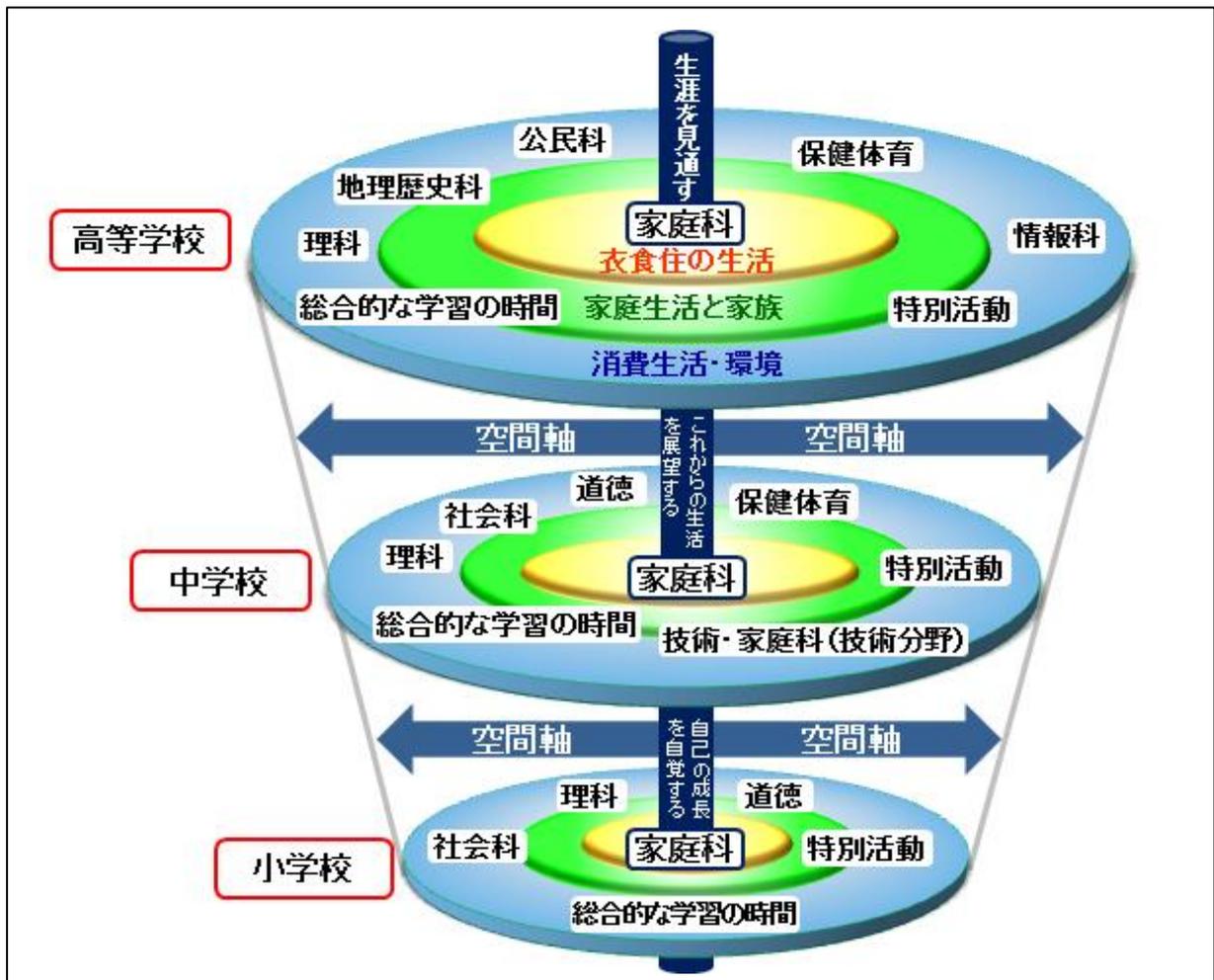


図2 家庭科を基点とした「消費生活と環境」に関する内容の系統図